令和４年度前学期　授業評価アンケート結果のまとめ

※本年度の授業は、ほぼコロナ禍以前と同様に対面で実施した。ただし、授業時のマスク着用や教室換気等の対策は継続した。感染や濃厚接触、ワクチン接種の副反応等を理由とする欠席については、各授業の内容と方法に応じて個別に十分な補填をおこなうこととした。

1. アンケート実施方法
   (ア)評価対象は全授業。
   (イ)Web アンケート方式で、授業の最終回に学生に対して回答を要請する。
2. アンケートの内容
   (ア)設問１：授業方法について６項目、設問２：授業内容について４項目。これらの回答は三択（はい、どちらともいえない、いいえ）で、それぞれ 10：5：0 の 10 点満点に換算して平均点を求め、それらの合計を総合評価点（100 点満点）とする。
   (イ)設問３：授業で身に付いた力。DP に示された 6 つの力に対応する項目に対して、当てはまると思うものを選択する。本年度から DP の固有指標に対応する項目として「科目に関わる知識や技術」を追加した。
   (ウ)設問４：履修の動機および 1 回の授業あたりの予習・復習に費やする時間について、それぞれ選択肢から当てはまるものを選び回答する。
3. 解析結果：履修登録人数 15 名以上、回答数 10 名以上のもののみを対象とした。回答率は履修登録数を分母として 69.3%であった。
   (ア)図１には、設問１・設問２の項目ごとの平均点分布を、対象授業すべてに対してまとめて示した。全体の傾向および平均点はこれまでの年度・学期の結果と大きく変わっていない。ただ、2020 年度から設問を変更した問 1-6「学生同士が意見交換したり質問などを共有したりする機会や場がありますか」については、平均点が 2021 年度の 7.76 から 8.05 に上がっており、評価がもっとも低い項目として改善が進んだ結果となっている。
   (イ)図２には、対象科目すべての総合評価点の分布を示した。こちらも、全体的な様子は昨年度の結果と大きく変わっておらず、ほぼ飽和した状態と言える。
   (ウ)図３には、設問４で回答された授業１回あたりの学修時間の分布を示した。こちらも傾向に大きな変化は無く、十分な授業外学修がおこなわれているとは言い難い状況が続いている。
   (エ)図 4 には、身に付いた力 7 項目の選択率分布を示した。こちらも、コロナ禍の影響が明けた 2021 年度と全体的な傾向は同様であったが、受け取る力から高める力までの４項目がやや低い方にシフトしている様子が認められた。また、新たに設けた「科目に関わる知識・技術」の選択率は、期待していたより低かった。それらの原因については、更なる分析が必要と考えている。

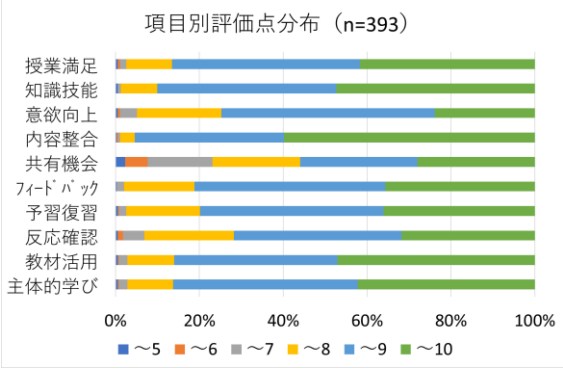

図１　項目別評価点の分布

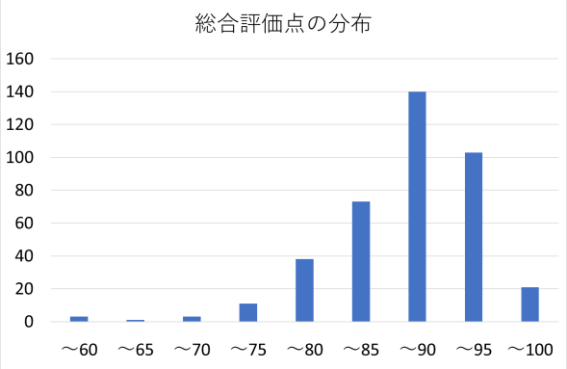

図２　総合評価点の分布

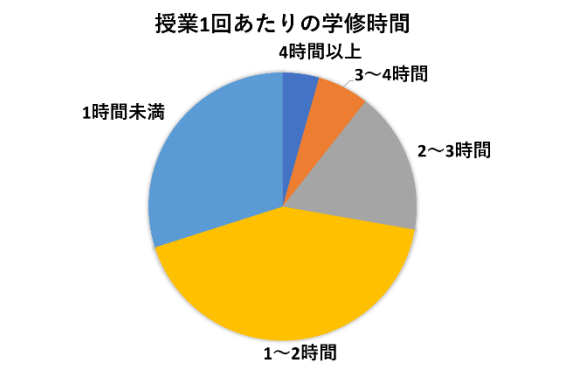

図３　授業１回あたりの学修時間

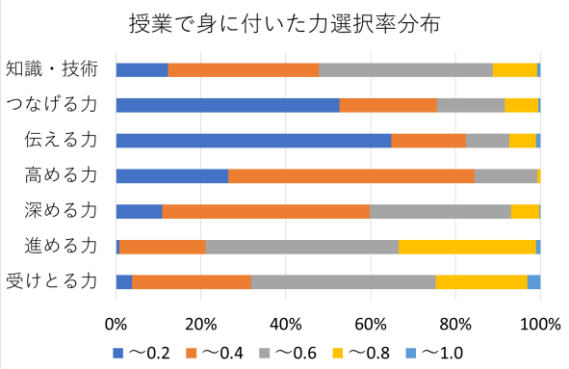

図４　授業で身に付いた力７項目の選択率